

安平町地域おこし協力隊制度を活用します

昨年、地域おこし協力隊をテーマとした民放ドラマが放送され、ご覧になった方も多いのではないのでしょうか。安平町では今年からこの「地域おこし協力隊」制度を活用するため、フェイスブックやホームページなどを通じて日本全国に向け隊員募集を開始しました。

地域おこし協力隊ってな～に？

・地域おこし協力隊の制度とは

平成21年度に総務省が創設した制度で、主に人口減少や高齢化が進む地域で全国的に導入されており、各自治体が抱える諸課題の解決や地域活性化のきっかけづくりとして活用されています。

地方自治体が都市住民を受け入れ、地域おこし協力隊員（以下「隊員」）として活動してもらいます。

隊員の活動は、各自治体によって多種多様（安平町での活動概要は下記のとおり）ですが、地域で暮らしながら定住・定着を図り、活動を通じて地域の活性化につなげるものです。

・国からの財政支援

隊員の給料や活動に要する経費などは、国から特別交付税として交付されます。

※特別交付税…個別、緊急の財政需要に対する財源が、国から地方公共団体へ交付されるものです。

・期間

概ね1年以上 ※活動内容等により最大3年間まで任用期間の更新が可

・隊員数

全国では617人（207自治体）、北海道では92名（38自治体）の方が隊員となって活動されています。

※平成24年度特別交付税ベース

安平町地域おこし協力隊の活動

・安平町の現状と課題

安平町の基幹産業は農業であり、日本を代表する軽種馬の大産地であるとともに、チーズ発祥の地を支えてきた酪農業や畜産業、アサヒメロンなどの集約型作物に土地利用型作物など、地域の特性を活かした北海道らしい豊かな農村が築かれています。

ただ、近年は生産者の担い手不足が生じており、肉用牛等の飼養管理等をはじめとする産業活動のノウハウを次の世代へ引き継ぐための人材、そして、地域を支えるための人材確保が課題となっている地域もあります。

また、安平町は、新千歳空港や苫小牧港、道都札幌にも近いことから、農業と観光をマッチングさせた体験交流型観光やグリーン・ツーリズム、本州の修学旅行生等の体験学習などの受入れ要望が増えてきていますが、これらを受入れるための体制が整っていないため、実現できていない状況にあります。

町としても、交流人口の拡大に向けた取り組みについて検討しており、安平町の地域資源に着目した取り組みを進めていくための人材確保と受入体制の構築が課題となっています。

募集人数と活動概要

(1) 農業支援員 1名

主に次のような活動を行いながら、将来的にはそのノウハウを活かし、地域の担い手として新規就農としての定住を目指します。

- ①肉用牛の飼養管理を主とした農作業全般
- ②農地・水路等の環境保全活動
- ③祭事等の地域活動



(2) 観光協会事務局専属スタッフ員 1名

観光協会専属スタッフ員として次のような活動を行いながら、将来的には自由な発想と企画力により安平町の地域資源に着目した観光ビジネスによる起業や交流人口の拡大を期待するものです。

- ①観光協会業務（協会窓口業務、観光宣伝、事業運営など）
- ②グリーン・ツーリズム業務（受入先の発掘、観光メニューの考案など）
- ③物産PR業務
- ④まちづくり支援業務（コミュニティ活動支援、特産品開発支援など）

このように、都市部からの住民を受け入れることで、「都会にはない安平町の魅力だったり、町民にとっては当たり前だけど都市部からの隊員にとっては新鮮だ」という感覚など、私たちとは違った視点と感覚を活かしてもらいながら、安平町の課題解決と地域活性化の一助として、安平町では「地域おこし協力隊」事業に取り組んでいきます。

現在、隊員募集を開始したところですが、今後隊員が着任した際には、広報等を通じて隊員の紹介と活動状況の報告をしていきます。

問合せ

企画財政課企画グループ

☎2751